

## 第23回 みどりの文化賞



日本の山から  
明るく豊かな展望の到来を願って

受賞者  
島崎 洋路氏 (84歳)

1. 島崎洋路氏は、昭和26年から信州大学の教官として長年にわたり大学演習林の現場で森林管理・研究・教育に携わり、多くの有為な人材の育成に貢献してきた。

その間、人工林の管理不足や林業従事者の激減など、林業を取り巻く状況の悪化を懸念し、平成6年、信州大学の退官を機に、自らの退職金を投入して中央アルプスの山裾に山小屋を建て、「山造り承ります」と「島崎山林塾」の看板を掲げ、森林の調査・施業の計画をはじめ、実際に現場の作業が出来る「山守り」の育成に当たり、多くの若い技術者を育ててきた。

2. 長年の大学演習林の管理を通じて、「素人でもできる方式」の列状間伐や、最終的に残す木を始めを選んでマークし、その周囲の支障となる木を順次間伐する「保残木マーク法」など、現場からの実証的な独自の手法を提案して実践するとともに、山林所有者から森林施業の指針づくり、間伐や搬出作業などの依頼があれば自ら出かけて行って伐採や搬出作業を行い、山造りのノウハウを伝授してきた。

こうした功績が評価されて平成19年には「第14回信毎賞」(信濃毎日新聞社)が贈られた。

3. また、地元の電子部品メーカーが環境貢献活動として主催する「KOA 森林塾」において山造りの実践例、初心者向けの山仕事などボランティアを指導するに当たり、「楽しくてためになる」を合い言葉に、森林の健康状態をボランティアと専門家が科学的に把握し、カルテづくりを行う島崎メソッドを確立し、現在各地で活躍する実践的な森林ボランティアを数多く育てた。

4. そのひとつである愛知県豊田市の矢作川水系森林ボランティア協議会が実践する「森の健康診断」は、島崎氏の下で学んだ森林ボランティアたちが島崎メソッドを応用して展開しているもので、全国各地への拡がりをみせ、「子どもによる森の健康診断」などとともに大きな運動となっている。

このような全国各地で活躍する実践的な森林ボランティアを数多く育ててきた氏の功績は、極めて高く評価されるものである。

### 【島崎洋路氏の経歴等】

#### (略歴等)

- 昭和3年5月 長野県駒ヶ根市に生まれる
- 昭和24年3月 県立長野農林専門学校林科卒業
- 昭和26年10月 信州大学農学部助手(付属演習林)勤務
- 昭和46年10月 列状間伐法提案
- 昭和52年10月 保残木マーク式間伐法提案
- 平成5年3月 「高密度カラマツ林の間伐と間伐材の搬出に関する経営学的研究」により農学博士号取得
- 平成6年3月 信州大学農学部教授退官
- 平成6年4月 島崎山林研修所(島崎山林塾)開設  
KOA森林塾創設専任講師
- 平成13~15年 岐阜県立森林文化アカデミー特認教授
- 平成15~18年 長野県森林審議会委員(会長)
- 平成18~21年 森づくり安全技術・技能全国推進協議会副会長
- 平成18~現在 とよた森林学校校長

#### (受賞歴)

- 平成19年7月 第14回信毎賞(信濃毎日新聞社)受賞
- 平成19年11月 地方自治功労彰(総務大臣)受賞

#### (著書等)

- 平成11年11月 「山造り承ります」(川辺書林)
- 平成12年2月 「山のドクターと仲間たち」放映NHK総合